

# 長崎坂道発進

No.128

平成 21 年 10 月 30 日

事務局 電話・FAX 番号 095-819-2508 : 郵便為替口座番号 01740-5-105642 加入者名: 長崎斜面研究会

インフルエンザが  
私たちの生活に重くのしかかっています。  
みんなで手洗いの励行と、  
人混みを極力避けることに  
心がけましょう。

**事業計画****斜面研究会 秋の討論会 (予定)**

11月28日(土)か29日(日)

場所 水の浦自治会

**講演会 (NHKナガサキハートプラザ)**

11月28日(土)10:30より12:00

テーマ: ユニバーサル情報支援の取り組み

講師: NHK 政策局文化・福祉番組部

テーフ: 迫田朋子

要申込: 電話で050-3440-1346

NPOながさきハンディキャップサポートセンター

**事業報告****コミ研講習会開催される**

10月11日(日)に長崎大学中部講堂で、ナガサキコミュニケーションエイド研究会の講習会が開催されました。参加者は100名程度です。本会の共催です。午前中は、コンピュータの障害者用の入力装置の開発で有名な町田さんをお呼びしての講演です。コンピュータの入力が障害者にとっていつも問題となります。一個だけのボタンで、あるいは2個のボタンで、震える手でも操作できるようにと、さまざまな工夫について講演がありました。

午後には、熊脇さんのALS患者としての発表があったのちに、熊脇さんが綿帽子コンサートで入賞した歌の演奏会がありました。熊脇さんの心にこもった思いが切せつとメロデウィにのった流れ参加者に感動を与えていました。その後には、なんとお笑いコンビ「ヒロあんどタカ」のお笑いです。出演は、脳性まひで車いす利用者の三浦廣高さんことヒロと本会の石松さんことタカです。笑点の軽妙な音楽に乗って表れた二人の初舞台はなんとか笑いを誘っていました。見るほうも冷や汗のようでした。

そのあとは今年の四月にウェスレヤン大学に入学した中島クンの体験記です。ハーティーラダーを使っている文字の作成の苦労を皆さん真剣に聞かれました。

参加者は、福岡や佐賀の養護学校、老人施設の方々もおられ、懇親会では熱心な討議がなされていました。

**音信・訪問**

**ALSの患者さんを訪問:** 諫早と東長崎にお住まいの2名のALS患者さんを訪問してきました。ALS協会長

崎支部の熊脇さん、立川さんと一緒です。ALS協会の家族の集いへのお誘いと、ご機嫌うかがいです。(10/6)

**お寺の住職さんを訪問:** 高齢で身体機能がかなり落ちているお寺の住職さんを訪問しまことした。認知症もあり、夜間の徘徊が心配で、離床センサの設置を依頼されていました。奥さんから、そのお寺が由緒ある有名なお寺であることを聞きました。托鉢を主とする歴史的なお寺でした。(9/5)

**五島の高齢者施設を訪問:** 五島でNPO法人を立ち上げ活発に、グループホームやショートステイを行っている施設を訪問しました。スタッフの方々から、施設としての問題やニーズを聞きました。廃用を防ぐための努力をおこなっているが、どうしても人手が足りずなんとかできないか、特に徘徊の問題が深刻でした。多くの宿題をいただき、さっそく帰って対応することとしました。特になんとかしなくてはと痛感したのが、聾で盲の方が昼間はひとりで自宅で暮らされていること。まさに、何らかの見守り手段が必要です。どのように対応するかはご本人の意向を聞いてからとしました。(9/6)

**車いすのマラソンランナーを訪問:** 五島のNさんを訪問。Nさんは10年ほど前に事故で頸椎損傷となり、下半身が麻痺。指の動きも不自由です。しかし、障害に負けてはなるかと、車いすマラソンにチャレンジ。毎朝、3時ころには、家から出て20Km位を走られているそうです。ただ走ることが目的で、大会に出ることは考えてないそうです。上半身はがっちりされていました。毎朝のマラソンで車いすのタイヤがすり減り、頻繁に交換されています。Nさんの依頼は、早朝の、マラソンで家に戻った時に、車いすのタイヤが汚れており、その汚れを洗うのが大変で、電動で簡単に洗ってくれる機械を作ること。機械に詳しいNさんはこれまで業者に頼んだが、だれも作れなかったそうです。さっそく、戻って作ることに。期待の装置ができるように頑張ります。(9/6)

**病院を訪問:** 諫早総合病医院から電話。入院中のOさんのために設置したナースコールが異常との連絡。夜の7時半に訪問し、点検。コードが引っ張られて異常動作したことが判明。すぐに対応。(9/26)

**頸椎損傷者を病院に訪問:** T君はラグビーで頸椎損傷となりましたが、障害を乗り越えて医師となり病院で勤務していました。最近、電話がありジョクソウで現在入院中との連絡。さっそくお見舞いに行ってきました。3か月ほどの入院が必要だそうですが、元気そうに見えました。夏の暑さでまいったそうです。頸椎損傷の患者さんが抱えるさまざまな身体的な課題です。(9/27)

**下関との交流:** 山口県の医療介護関係者を対象と

した研修会があり、長崎での斜面研究会や高齢者生活支援研究会の取り組みを紹介しました。以下のようなメールが届きました。

＝＝＝お話を聴かせていただき、本当に感動しました。具体的な患者さんへの支援はもちろんのことですが、退職された後の「元」技術者の方たちが活躍をされているのをお聴きし、

「これだ！」と... (笑)。

日々関わらせていただいている患者さまは、難病や重度の障害者の方々もたくさんおられますが、それ以外に、元気な「引きこもり」の方もかなりおられます。社会が人を「何もできない高齢者」にしているような気がしてならない時もあります。

でも、今回のお話で、地域に埋もれているたくさんの「技術」をもっともっと活用し、高齢の方も生きがいを感じながら暮らしていける「まち」にしていけることが大切なんだ、と思いました。

また、今入院中の方ではないのですが、30代の筋ジストロフィーの方や、40代の多発性硬化症の方など、人工呼吸器を付けて自宅で生活されている方も数名おられます。この40代の方は、人工呼吸器を付けた後になって、自分でヘルパーステーションを立ち上げ、現在は社長をされています。(もちろん日常生活は寝たきりで全介助の状態です。)

この方も、筋力低下はすこしずつ進行してきていますので、また「工学」の技術をお借りしたい日もそう遠くはないなあ...と思いながらお話をお聴きしました。

今回お話をお聴きすることができ、また宇部高専や山口大学に教え子の先生がおられる、ということも、本当に素敵なお縁だと思っています。

近日中に、宇部高専を訪問させていただきたいと思います。＝＝＝(10/3)

### 高齢者生活支援研究会の活動

高齢者生活支援研究会は、昨年より夏休み期間中に、小学生を対象に模型飛行機作り教室の開催を行っています。今年の夏は、親子119組の方が参加されました。親子で、楽しい夏休みの一日を過ごし、みなさん喜ばれていました。参加した小学生の感想文をいただきました。

長崎市立村松小学校 6年 浦江 壮志

僕は大学の教室で始めて勉強しました。大きな部屋で先生のお話を聞いて、大学生みたいでとても嬉しかったです。「飛行機はなぜ飛ぶのか？」はむずかしかつたけど、一生懸命考えて飛行機を作りました。

作るのに難しかったのは、尾翼を作って取り付ける所でした。

僕は、飛行コンテストの一回戦で番号を言われたとき、とても緊張していて心臓がドキドキ鳴っていました。そして、手を離して飛行機を飛ばしたら、もうドキドキがなくなっていました。僕は、自分の

飛行機だけを見ていました。するとどんどん遠くに飛んでいきました。飛行機が地面に着いたので、見たら大学生のお兄さんが旗を持っていて、5人中1番になったことがわかりました。とてもうれしくて本当に叫びたいほどうれしかったです。飛行機を取って、みんなのところに行くときは、少し恥ずかしかったです。

二回戦の1対1で飛ばすときは、あまり緊張せず、ゆっくり飛ばすことが出来ました。でも、相手の飛行機の飛ばす時間が少し長く、僕は負けてしまいました。

### 会員投稿

#### 韓国での滞在中

石松隆和

韓国済州島に6日間、その後ソウルに4日間滞在しました。毎年韓国に行っていますが、今回はゆっくりとした滞在中で、これまで見えなかった韓国の側面を見てきました。

**健康意識・環境意識が高い**：済州島では、島の中央部にある1900m級の休火山、ハンラ山に登りました。多くの子供や若者に交じって多くの高齢者も登っています。皆元気よく、楽しそうに登っています。特に高齢者はしっかりと登山靴をはきユックリと確実に登っています。ビックリしたのが山にはごみ一つ落ちていません。登山道の両側には、自然を守るために、柵がずっと作られています。山上には売店がありましたが、物を買うとビニール袋を渡されて、ごみは全部持ち帰るように指示されました。徹底した自然保護がなされ、草木もしっかりと守られています。山上の通路には横木で床が敷かれ、快適な山歩きができました。もちろん、景色も最高でした。登頂コースには1時間コース、4時間コース、5時間コースとありますが、もちろん今回は1時間コースでした。お勧めの登山です。

ソウルの有名なソウルタワーがある南山(300mくらい)にも登りました。自動車道路がありますが、休日は、自動車は走らず、ジョギングする人や登山の人が三々五々歩いています。道の片側通路には、ジョギングで足を痛めないようにゴムマットが敷かれています。ソウルでさらに感心されたのは市内の中央部に、川幅20m程度ですが魚が泳ぐきれいな川が整備され、人々が川岸を散歩できるようになっています。この川は、以前は地下を通る用水路でしたが、現在の韓国の大統領がソウル市長時代に整備し、で市民の喝采を浴び、その成果で大統領になれたと言われる川です。

韓国に来ると、人々が食物や薬、お茶に関心が高く、健康にすごく気を使っていることがわかります。また、それを政府も支援しています。日本人として、健康への気遣いをおろそかにしていることを知られます。

**英才教育**：テグ市にある大学で行っている小学生と

中学生を対象とした英才教育を現場で見してきました。市内で選抜された児童が物理コース 15 名、数学コース 15 名、化学コース 15 名が、クラスに分かれて、毎週土曜日に集まり、英才教育を受けていました。コンピュータを自在に使うって発表を行い、児童同士が討論をやってます。内容も高度な内容です。何が驚いたかと言うと、児童が議論を戦わせていることです。先生は、静かに見守っています。韓国が教育にはかなりの費用が使われています。日本の教育費は先進国 29 カ国で 28 位。数年前は最下位だったそうです。このままでは、あっという間に韓国から追い越されます。

**バリアフリー:**韓国ではバリアフリーがかなり整備されています。街中でも多くの車いすの人に会いました。空港でも、電動車いすの利用者が電動車椅子のまま飛行機に乗ろうとしている姿に驚かされました。ただ、田舎のほうでは、まだまだ大変だろうなと思われました。

**高齢者にとって:**韓国は儒教の国であり、高齢者を尊敬することで有名です、昨年来た時に、私よりも明らかに高齢と思われる男性から席を譲られたのはショッキングなできごとでした。今回の訪問で、つくづく思ったのは、そのような高齢者を尊敬する思いを持ちながらも、街が急速に発展し、高齢者になじみにくい方向に向かっていることです。ソウル市では地下鉄が高度に発達しています。その地下鉄のチケットシステムが、つい最近、コンピュータ化され、利用者は IC カードを必ず使うようになりました。ソウル市民もまだ慣れておらず IC の販売機の前には長い列ができていました。自動化は良いのですが、高齢者には馴染みにくい仕組みの導入です。街の発展と高齢者の問題は、これからもっと深刻になるでしょう。これは日本も同じです。

日本とデパートでは、若者向けの取り組みを、高齢者向けとしたところがあります。韓国の新しいショッピング街はまさに若者向けです。

**サウナで:**韓国の人と日本人の違いを時々感じますが、サウナでは特に実感します。日本のサウナや銭湯では、日本人は下半身を隠しながら歩きますが、韓国の人には全くのオープンです。堂々としています。これには関心。

**地下鉄で:**地下鉄の中で子供連れが乗ってきた時のこと、座っている人が席を譲るのかなと思ったら、なんとその子を膝に抱きかかえたのです。子供の親は、当たり前のようにしています。後で説明を聞きましたが、他人の子供であっても、子供は国の宝と思って大事に思って、このようにするのは当たり前だそうです。

**おまけ:**韓国はとにかく発展しています。街中はキレイに整備されています。建物や通りは大きく快適です。街中にいても、以前のようにキムチの臭いがありません。街中にゴミもありません。これは、通りを清掃する人がいつもいるおかげです。

写真はチェジュ島の石の公園でのスナップです。面白い石の椅子です。



### 今月のアレレ!?

**生体肝移植:**学生の母親から電話があり、学生が肝臓を父親に移植するために学校を休むとの連絡。父親の肝臓が悪くなり、急な決定だったようです。本人も悩んだそうですが、最終的に同意し、手術となったそうです。最高の親孝行!?

**大阪で工場見学:**学生 50 人連れて大阪まで工場見学。行く先々の工場で、その広さが甲子園野球場の何倍ですとの説明。大阪では広さを説明するときには甲子園野球場が基本であることを発見。東京だと東京ドームですよ。長崎では、そんなこと言いませんよね。

**韓国の大学生:**濟州島の大学の研究室を訪問。部屋の隅に仕切りがあり中を覗くと、4 畳ほどのスペースに蒲団が敷いてありました。実は研究室の学生は、研究室に寝泊まりしているそうです。全員ではないのですが、半数くらいがそうしていると聞きました。ご飯も共同で炊いているそうです。たくましさを感じました。

**水島ヒロ:**俳優の水島ヒロを知っていますか? 東京の息子から電話。昔、スイスの小学校に行っていた時に、同じクラスで仲の良かったトモ君本人であることを発見。たいしたことないけどビックリ!!

本ニュースは斜面研究会の活動を会員の皆さんに連絡することと合わせて、斜面、高齢者、障害、心、生活、地域をキーワードとした情報を提供することを心掛けています。本ニュースへの、皆さんからの投稿をお待ちしています。投稿原稿は、下記まで。

#### 事務局連絡先:

長崎市文教町 1-14 長崎大学工学部  
石松隆和、竹山裕子

Tel. & Fax . 095-819-2508

E-mail ishi@net.nagasaki-u.ac.jp

ホームページ <http://www.shamenken.jp/>